

冬の乗鞍高原に仮設トイレ

観光協会「携帯トイレ」で利用

のりくら観光協会（松本市安曇）が23日、乗鞍高原の市野外音楽堂脇に災害用の仮設トイレを試行的に設置した。利用者は使い捨ての「携帯ト

イル」で用を足す仕組みで、環境を保全しつつ、積雪期の散策を楽しむやすくするアイデアだ。3カ月間導入し、利用状況や評判を聞き、来季以降の本格導入を考えると



仮設トイレをアピールするのりくら観光協会の中森さん（右）ら

に抑えたり、携帯トイレを持たせたりする工夫をしてきた。今回、災害用トイレの処理剤などの開発・販売を手掛ける「エクセルシア」（東京）が協力。パネル式仮設トイレを組み立てた。利用者は便座に携帯トイレを取り付け、特殊な錠剤を入れてから用を足すと、泡が包んでし尿が固まる。携帯トイレは、その場のごみ箱に捨ててもらい、協会が回収する。

協会は、仮設トイレ内に使用方法の説明書きを掲示した。乗鞍高原では、積雪期に使えるトイレ整備を求める声があった。一方、使用済みの携帯トイレが投棄され、環境破壊につながるかねない心配する向きもあったという。協会は「県内には冬のトイレに困っている地域も多い。乗鞍モデルを成功させ、広く普及できればいい」と話している。

た。携帯トイレは、ツアーではガイドが客に渡すほか、持っていない個人客らは1個250円で買えるように内部に置いておく。